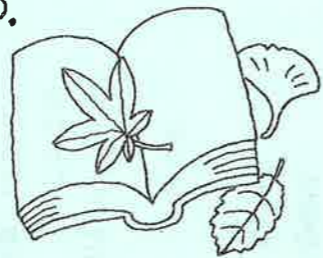




青森県教組養護教員部2021.11.10.

お元気ですか。秋の夜長を楽しんでいますか。



天声人語

8月終盤、早々に2学期入りの地域もあれば、感染対策で夏休みが延びる地域も。コロナ下で、例年以上に子どもたちの生活リズムが乱れはしないか。心配する保護者も少なくないだろう▼そんないま、ヒントになりそうな研究がある。滋賀大の<sup>大平</sup>雅子教授(38)らはある夏休み、小学生13人を研究室に招き、一人ずつ昼寝してもらった。深い眠りに落ちたことを脳波で確認し、待つこと5分。3通りの音声と同じ音量で聞かせ、目覚めるまでの時間を比べた▼ピッピの電子音だと平均310秒。それぞれの母親にあらかじめ録音してもらった声だと31秒。見知らぬ女性の声だと26秒だった。二つの声の差は統計学上、誤差の範囲内にあった▼いつものアラームがこまごまふるわないとは。「音より声、声より名の方がインパクトが大きいとわかりました」と大平さん。父親の声であれば、声優の声であれ、同様の結論が得られるとみている▼諸外国と比べて、日本の子どもたちは「夜更かし」型だとかねて指摘されてきた。教室で眠気に苦しむ子も珍しくない。子どもの5人に1人が睡眠の問題を抱えているという調査も▼実験に使った「母の声」を聞かせてもらった。「りょうたー、りょうたー」「ほのちゃん、ほのちゃん」。後に続く「いつまで寝てるの」「いい加減に起きて」は一律に封印をお願いしたそうだ。全国の保護者の皆さん、朝はガミガミ言わなくても名前の連呼だけでどうやら十分。電子音の10倍効きますから。

2021・8・25

折々ことば 鷺田 清一 2128

中学生がノートに綴る架空の物語。級友たちも加わりリレー小説のようになる。それを知った学校側はみなに勇氣と感動を与えたとして表彰するが、自分が楽しければいいだけで、教師が例示した感謝のスピーチにも歯が浮く。はっきりしたのは「何ぞれ」という違和感の中に自分があること。妙な理解は要らない、そっとしておいてほしい。漫画『ほしとん』第4巻から。

本田(漫画家)

2021・8・28

水 後藤正文の朝からロック 「聞く力」という言葉を前に

松村圭一郎さんの著書『くらしのアナキズム』を讀んだ。なんのために生き、働くのか。どんな社会で暮らしていきたいのか。そうした問いは、政治家や専門家など選ばれた人たちのものではなく、生活者である私たちのものであると松村さんは綴る。デヴィッド・グレーバーの「政策は政治の否定である」という言葉が引用された文章が鮮烈だった。「政策」という観念はトップダウン的であり、市民が自らの問題を解決すべく対話を重ねてボトムアップのようなかたちで行われるのが本来のコミュニケーションのあり方、それこそが政治なのだという指摘が胸に刺さる。スーパーやコンビニの棚に並ぶ商品を選ぶように、選挙の度に陳列される各政党の政策のなかから自分の考えに近いものを選択する。そうした心持ちでいれば、似合うものがないと投票所から足が遠のく自分の姿が容易に想像できる。自民党総裁選の折、「聞く力」という言葉をよく目にした。松村さんの指摘にならば、統治機構の側にいる人たちの言葉を集約して利害を調整することが政治における「聞く力」ではない。彼らが聞くべきなのは市民の声だろう。一方で、様々な対話に参加してきたらどうかと自らを問う。お互いに言葉を発し、それをよく聞く。まずはそこから、政治参加について考え直したい。(ミュージシャン)

現職の方にチラシを同封しました。鎌田克信先生は19年8月に学習会の講師でお招きしました。「学校教育の真ん中に子どもたちのからだといのちを」というテーマで講演して下さいました。「学校の中に、養護をつかさどる目で子どもを見る立場の担任以外の人がいることが大事だ」というお話が心に残っています。ぜひリモート学習会に参加してください。



今回は「いろいろ講座11/25(木)」のお知らせのために大急ぎで作りおいた。切り抜きはすべて朝日新聞です。

食欲の秋。私はおにぎりにハマッて、ご飯を炊くとおにぎりを作りたくてたまりません。でもつい食べすぎてしまうので自重しています。腹立たしいのはお米の値段の暴落。生産者の暮らしを考えると許せません。生活が成り立ち、は安心して米づくりができるような政治をしてもらいたいです。



文責 阿部陽子 スマイルサポート(017-722-3749)

特派員メモ

◆ニューヨーク

土曜の午後、ニューヨーク州で取材を終え、ニューヨークに戻るためバスに乗った。住宅街を抜けるルートで1時間ほどの距離。運転席の近くに座り、フロントガラス越しに景色を楽しもうと思っていた。いろんな人が乗ってくる。30代ぐらいの女性は「財布を忘れた」。40代ぐらいの男性は「間違ったバスに乗ってしまったので戻りたい」。夕方で乗せてくれという意味だが、その理由が本当かは疑わしい。でも運転手は「オッケー」と即答し、次々に乗せていく。「俺の判断だ」という自信がマスク姿の目にあふれている。目的地の近くで降りたい、と要望した高齢の女性は、特別に停留所ではない場所で降ろした。やがて住宅街を抜け、トンネルにさしかかる。抜ければ終点のニューヨークだ。すると突然、運転手が歌い出した。乗客も手拍子を始め盛り上がる。運転席の上部には「バスが動いている時は運転手に話しかけないでください」と注意書きがある。料金は払うべきだし、停留所以外での降車は危険かもしれない。でも、素早い判断でとにかく物事を前に進め、最後は目的地を前に自ら歌っちゃう。これもありだなと思った。良い景色が見られた。(真海衛生)

バスで見た いい景色